「マリウポリの数え切れない悲劇の一つ」ただ言葉を失うばかり。

ママはもういない... 

マリウポリの鉱山で楽しい時間を過ごした....

父は遺体の遺体を車で持ち帰った....

それだけが知られてきた...

そこには繋がりもありません。 10の手を通して情報を学んだ.... 死亡日さえ知らない...

PMに書かないでください

パパは一人でそこに去った

—————————

P.S.

今までずっと両親との接触はなかった。

今日5月27日、私たちは母が3月31日に亡くなったことを知った。

これが起こった1ヶ月後! 疲れた

—————————

今日6月20日だけ、私は私たちの家族に起こったこのひどい話をあなたと共有することができます。

—————————

ママとパパは人道支援のために海岸を歩いていて、私たちに連絡する場所を探そうとしていました。 父は後ろを歩いていた。 午前10時。爆発が起こった。

ママが鉱山を踏んだ。 父は爆発で捨てられた。 これが胸を打った。 その後、長い間胸が痛かった。 急に見えなくなった。 右目は打たれた方がひどい。 爆発で十字架のついたチェーンが胸を折った。 感覚を取り戻すと、彼は母のところに走った。

彼女の脚は完全に無傷だった。 彼らはぼったくられた。 彼女は彼に座ってくれと頼んだ。 植えた。 彼女は冷静に彼に自分は暑いと言った。 お父さんは上着を脱いだ。 彼女は私に飲むように頼んだ。 父は彼女に水をあげた。彼女は最初の一口を飲み込んで、2口目を飲むことができなかった。

10.08 お父さんの前にいるお母さんは失血で死亡。 人生の最後の8分間、彼女にキスして話しかけた父。

私には彼女を迎えに行って家に運ぶ体力はなかった。 今月の間、私は絶えず爆撃に疲れたり、地下室に座ったり、適切な栄養不足だった。 前日、リン爆弾が庭に直撃し、父は爆発で怪我をした。 ママは地下室に座って聖書を手にし、一ヶ月中祈っていた。

父は車を拾いに家に帰り、彼が戻ったとき、彼は母を積み込み、夕方まで一日中、彼女を落ちる砂の上で家に運転した。

ママの体は2晩家にいた。 他に時間を描く場所がなかった。 父は庭で濃密なセロファンを見つけ、遺体を包み込んで車に積み込んだ。 路上で非常に強い喧嘩があったため、隣人の誰も埋葬を手伝うことに同意しなかった。 父は、恐怖心は全くなかったと言い、彼らに起きたような恐怖は映画でも放映されていない。

彼は火事下の最初のタンクに近づき、妻を埋葬することを許可するように要求し始めた。 軍は言い訳をした。 彼を通過させる。 私は墓地に車で水没した母と一緒に来ました。 墓は爆発からすべて引き返された。 彼はすでに母親と一緒にバッグを地面に引っ張っていた。

彼はママのお父さんの墓の近くに穴を掘り始めた。 彼らは彼を撃ち始めた。 彼はより良く目指そうと叫んだ。

そこから穴を掘る。 埋めろ

父は72歳。

今では毎日彼女はお母さんの墓参りに行き、庭から新鮮な花を持ってきてくれます。 ドーマは彼女のポートレートに話しかけている。 かなり恋しい。 いつも、彼の母親に何が起きているのかの写真は彼の目の前にあります。 夜眠るのをやめた。

彼女はいつも電話でこの話を話す。 先日、伝えていたら、わっと泣き出した。 初めてお父さんが泣くのを聞いた時。

パパは今マリウポリに滞在中。 離れたくない。 彼は3匹のお気に入りの犬と4匹の猫を飼っています。 地下室への階段をいつも爆破し、そこに彼らと一緒に座っていたのは誰だ。 私はこの階段をほとんど降りなかった。彼らは健康な犬だったから...

水道、ガス、通信、電気が4ヶ月もありません... そのコミュニケーションはとても努力した。 彼は路上で一人でコネを持っている。 接続はひどい。 耳が悪いとそれが起こる、数日間届かない。

私たちと話すと彼は気分が良くなる。

お父さんは、お母さんを救わなかったことに対して強い罪悪感を持っている。

今は石器時代のようだ。 人生は腹ペコ。 彼はもはやパスタを見ることができないと言っている。 人道的援助はめったにない。 この暑い中、お父さんはキャンプファイヤーで料理をしなければならない。 彼の年齢では、それはすべて難しく、同時に、それはすぐに飛ばす。 猫と犬はだいぶ体重を減らした。 汚い。

お父さんは本当に読書が好き。 そして眠れない夜、彼は親切な人々が彼にキャンドルを持ってきてくれたという事実のおかげで読書しています。

ロシアに住む私の親愛なる妹がこの状況で起こした恐ろしい瞬間がまたあります。 でも、話す元気はまだない。

私と私の家族にとって無力さと恐怖の4ヶ月は跡形もなく過ぎ去りませんでした。 私の健康は今すぐ回復する必要があります...

母の名前はエレナ・ヴァシリエヴナ。 私の母は68歳だった。 学校で教師として30年の継続的な経験。 父と私は3人の子供を育てた。

…………………………

テキストの著者はオクサーナ・グルシチェンコ